

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2019年4月12日

【四半期会計期間】 第39期第2四半期(自 2018年12月1日 至 2019年2月28日)

【会社名】 株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス

【英訳名】 AFC - HD AMS Life Science Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 浅山 雄彦

【本店の所在の場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-0585(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部管掌 田村 茂樹

【最寄りの連絡場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-5238(直通)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部管掌 田村 茂樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第1四半期より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第38期 第2四半期 連結累計期間	第39期 第2四半期 連結累計期間	第38期
会計期間		自 2017年9月1日 至 2018年2月28日	自 2018年9月1日 至 2019年2月28日	自 2017年9月1日 至 2018年8月31日
売上高	(千円)	7,723,819	8,338,164	15,795,643
経常利益	(千円)	504,067	617,909	982,012
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	338,961	502,363	736,680
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	341,041	498,398	718,194
純資産額	(千円)	7,944,238	10,010,747	9,652,986
総資産額	(千円)	16,795,383	18,124,036	18,007,721
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	27.99	35.72	58.28
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	47.3	55.2	53.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	476,748	244,904	1,221,626
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	414,255	58,359	850,065
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	165,425	289,701	280,168
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	2,769,844	3,421,350	3,524,507

回次		第38期 第2四半期 連結会計期間	第39期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2017年12月1日 至 2018年2月28日	自 2018年12月1日 至 2019年2月28日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	13.33	19.57

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、米中貿易摩擦の動向など海外経済の不確実性が懸念要因としてあるものの、雇用・所得環境の改善により個人消費に持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調が続きました。

当社グループが属する健康食品市場は、インバウンド需要の好調などにより、緩やかな成長基調を維持しております。近年、主力顧客層である高齢者層に加え、不足しがちな栄養素の補給や引き締まった身体づくり、スポーツのパフォーマンス向上を目的として、若年層における需要も増えております。

このような状況の下当社グループでは、前期に引き続き青汁などの定番商材の好調に加え、乳酸菌関連商材が伸長したOEM部門が牽引し、当第2四半期の連結売上高は8,338百万円（前年同期比8.0%増）、営業利益は598百万円（前年同期比15.9%増）、経常利益は617百万円（前年同期比22.6%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、連結子会社において固定資産売却益を計上した影響も加わり、502百万円（前年同期比48.2%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### （ヘルスケア事業）

##### ・OEM部門

当社グループの主力事業である当部門は、定番商材である青汁が好調を維持したほか、乳酸菌関連商材が伸長いたしました。また、口腔ケアや育毛ケア等のコンプレックス対策商材も受注が増加しました。その結果、当部門の売上高は前年同期比2桁増となりました。

生産面については、粉末製品の生産量増加を受けて、昨年9月に大型流動層造粒機を1台増設しました。

##### ・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、ベトナムのOEM顧客ならびにインドネシアのOEM顧客において、美容商材の受注が伸長いたしました。また、韓国のAFC代理店において、通販事業の好調により受注が順調に推移いたしました。その結果、当部門の売上高は前年同期比2桁増となりました。

中国人営業担当による中国大手顧客の開拓を積極的に進めております。

##### ・通信販売部門

昨年11月に新発売した夜用の美容クリーム『エクスシャイニー スリーピングマスク』が、サンプリングにより商品の使用感が好まれ、好調な売れ行きとなりました。また、定番人気商品である『薬用アミノ酸シャンプー爽快柑』が、広告露出の拡大および通販会員向けのキャンペーン実施により伸長いたしました。しかしながら、通販市場の競争激化により、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

## ・卸販売部門

積極的に展示会への出展を継続したことが奏功し、新規顧客獲得による受注が増加しました。また、ハートフルシリーズに、昨年3月『恵むビタミンB群』『整う酵素』『若さのDHA・EPA・DPA』『噛むビタミンC』、昨年9月『呑むウコン』を新たに発売し、営業を強化したことにより、シリーズ全体が好調に推移いたしました。しかしながら、部門全体では売上高を伸ばすには至らず、当部門の売上高は前年同期並みに留まりました。

## ・店舗販売部門

百貨店主催の催事に積極的に出展したほか、セミナーや相談会を実施いたしました。また、人気商品『ラ・ヴィ・プラセンタ』が好調を維持したほか、昨年5月に新発売した『RICHアミノ3000』が、近年注目を集めている筋肉増強やロコモティブシンドローム対策の流れを受けて伸びてまいりました。しかしながら、店舗数の減少による影響を補い切れず、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高7,690百万円（前年同期比7.8%増）となりましたが、粗利益率の高い通信販売部門及び店舗販売部門が減収となった影響により粗利益率の悪化を招き、営業利益825百万円（前年同期比0.3%増）（全社費用調整前）に留まりました。

## （医薬品事業）

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品事業は、一昨年11月に自社製造販売を開始した医療用ジェネリック医薬品の『ピムロ顆粒』（センナ下剤）を筆頭に『シルデナフィル錠』（勃起改善薬）、『フィナステリド錠』（AGA治療薬）の拡販に努めました。

一般用医薬品事業につきましては、前期に引き続き新規設備を使用した新商品開発及び承認申請に取り組みました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高が647百万円（前年同期比10.1%増）となったものの、ジェネリック医薬品製造設備の減価償却費が増加したことなどにより、営業損失26百万円（前年同期は32百万円の営業損失）となりました。

## 財政状態

## （流動資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ194百万円増加し、9,316百万円となりました。この増加要因は主として、商品及び製品が96百万円、現金及び預金が85百万円減少した反面、受取手形及び売掛金が239百万円、原材料及び貯蔵品が173百万円増加したことによるものであります。

## （固定資産）

当第2四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ77百万円減少し、8,807百万円となりました。この減少要因は主として、連結子会社において物流センターを売却したことなどにより、有形固定資産全体で142百万円減少したことによるものであります。

## （流動負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ566百万円増加し、6,807百万円となりました。この増加要因は主として、支払手形及び買掛金が114百万円減少した反面、返済期限が1年以内に到来する長期借入金流動負債へ振替られたことなどにより、短期借入金流動負債が726百万円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ808百万円減少し、1,305百万円となりました。この減少要因は主として、返済期限が1年以内に到来する長期借入金が流動負債に振替られたことなどにより、長期借入金が768百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ357百万円増加し、10,010百万円となりました。この増加要因は主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が361百万円増加したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ103百万円減少し、3,421百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は244百万円(前年同期476百万円の収入)となりました。

これは主として、売上債権の増加額239百万円、法人税等の支払額129百万円、仕入債務の減少額114百万円、固定資産売却益95百万円などにより資金が減少した反面、税金等調整前四半期純利益697百万円、減価償却費228百万円などにより資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は58百万円(前年同期414百万円の支出)となりました。

これは主として、投資有価証券の売却による収入570百万円、有形及び無形固定資産の売却による収入291百万円により資金が増加した反面、投資有価証券の取得による支出638百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出272百万円などにより資金が減少したものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は289百万円(前年同期165百万円の支出)となりました。

これは主として、短期借入金の純増額210百万円などにより資金が増加した反面、長期借入金の返済による支出252百万円、配当金の支払額140百万円などにより資金が減少したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は74,059千円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,576,000
計	30,576,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (2019年4月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,144,720	14,144,720	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株でありま ず。
計	14,144,720	14,144,720		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2018年12月1日～ 2019年2月28日		14,144,720		2,131,839		2,209,025

## (5) 【大株主の状況】

2019年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
浅山 忠彦	静岡県静岡市駿河区	2,150,070	15.29
浅山 雄彦	静岡県静岡市駿河区	1,111,930	7.91
浅山 麻衣子	静岡県静岡市葵区	334,000	2.37
浅山 麻里奈	静岡県静岡市駿河区	330,000	2.35
アムスライフサイエンス取引先 持株会	静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号	245,200	1.74
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	128,000	0.91
株式会社静岡銀行 (常任代理人日本マスタートラス ト信託銀行株式会社)	静岡県静岡市葵区呉服町一丁目10番地 (東京都港区浜松町二丁目11番3号)	124,900	0.89
福地 千佳	静岡県静岡市駿河区	114,420	0.81
木内建設株式会社	静岡県静岡市駿河区国吉田一丁目7番37号	70,200	0.50
アムス従業員持株会	静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号	64,700	0.46
計	-	4,673,420	33.23

(注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式が80,969株あります。

2. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 128,000株

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2019年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 80,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,062,600	140,626	
単元未満株式	普通株式 1,220		
発行済株式総数	14,144,720		
総株主の議決権		140,626	

## 【自己株式等】

2019年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社AFC - HD アムスライフサイエンス	静岡県静岡市駿河区 豊田三丁目6番36号	80,900		80,900	0.57
計		80,900		80,900	0.57

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2018年12月1日から2019年2月28日まで)及び第2四半期連結累計期間(2018年9月1日から2019年2月28日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,079,507	3,994,350
受取手形及び売掛金	2,058,065	2,297,309
商品及び製品	1,066,864	970,134
仕掛品	870,670	871,010
原材料及び貯蔵品	873,082	1,046,226
その他	185,862	150,051
貸倒引当金	12,233	13,023
流動資産合計	9,121,818	9,316,059
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,940,298	2,895,999
土地	4,088,766	3,894,280
その他(純額)	1,035,343	1,132,046
有形固定資産合計	8,064,408	7,922,326
無形固定資産		
のれん	2,040	1,530
その他	93,236	100,791
無形固定資産合計	95,277	102,321
投資その他の資産		
その他	788,840	805,053
貸倒引当金	62,623	21,724
投資その他の資産合計	726,216	783,329
固定資産合計	8,885,902	8,807,977
資産合計	18,007,721	18,124,036
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,005,461	1,891,138
短期借入金	2,873,581	3,600,281
未払法人税等	202,668	221,111
賞与引当金	149,900	151,700
ポイント引当金	18,139	17,797
その他	991,089	925,637
流動負債合計	6,240,839	6,807,664
固定負債		
長期借入金	1,316,728	547,854
役員退職慰労引当金	164,995	172,701
退職給付に係る負債	299,297	304,499
負ののれん	1,689	1,408
その他	331,185	279,160
固定負債合計	2,113,895	1,305,624
負債合計	8,354,734	8,113,288

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年2月28日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,131,839	2,131,839
資本剰余金	2,195,880	2,195,880
利益剰余金	5,411,873	5,773,599
自己株式	59,284	59,284
株主資本合計	9,680,309	10,042,035
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,322	31,287
その他の包括利益累計額合計	27,322	31,287
純資産合計	9,652,986	10,010,747
負債純資産合計	18,007,721	18,124,036

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自2017年9月1日 至2018年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)
売上高	7,723,819	8,338,164
売上原価	5,436,448	6,012,459
売上総利益	2,287,371	2,325,705
販売費及び一般管理費	1,770,784	1,727,209
営業利益	516,586	598,495
営業外収益		
受取利息	30	36
受取配当金	2,974	6,619
投資有価証券売却益	7,189	19,311
受取賃貸料	10,589	10,071
負ののれん償却額	281	281
その他	4,882	7,821
営業外収益合計	25,947	44,142
営業外費用		
支払利息	31,369	18,773
その他	7,097	5,953
営業外費用合計	38,466	24,727
経常利益	504,067	617,909
特別利益		
固定資産売却益	18	95,839
特別利益合計	18	95,839
特別損失		
固定資産除却損	1,145	9,964
投資有価証券評価損	-	6,485
特別損失合計	1,145	16,449
税金等調整前四半期純利益	502,941	697,299
法人税、住民税及び事業税	174,349	187,554
法人税等調整額	10,369	7,381
法人税等合計	163,979	194,936
四半期純利益	338,961	502,363
親会社株主に帰属する四半期純利益	338,961	502,363

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年9月1日 至2018年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)
四半期純利益	338,961	502,363
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,080	3,964
その他の包括利益合計	2,080	3,964
四半期包括利益	341,041	498,398
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	341,041	498,398
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年9月1日 至2018年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	502,941	697,299
減価償却費	202,236	228,654
のれん償却額	228	228
賞与引当金の増減額(は減少)	8,400	1,800
ポイント引当金の増減額(は減少)	1,453	342
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	13,386	7,706
受取利息及び受取配当金	3,005	6,656
支払利息	31,369	18,773
固定資産売却損益(は益)	18	95,839
固定資産除却損	1,145	9,964
投資有価証券評価損益(は益)	-	6,485
売上債権の増減額(は増加)	45,583	239,243
たな卸資産の増減額(は増加)	109,204	76,755
仕入債務の増減額(は減少)	92,538	114,322
未払消費税等の増減額(は減少)	15,545	27,993
その他	19,301	79,477
小計	610,051	386,269
利息及び配当金の受取額	2,992	6,641
利息の支払額	31,297	18,580
法人税等の支払額	104,997	129,424
営業活動によるキャッシュ・フロー	476,748	244,904
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	405,208	272,675
有形及び無形固定資産の売却による収入	18	291,181
投資有価証券の取得による支出	124,917	638,418
投資有価証券の売却による収入	127,921	570,902
その他	12,070	9,349
投資活動によるキャッシュ・フロー	414,255	58,359
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	206,879	210,000
長期借入れによる収入	1,122,000	-
長期借入金の返済による支出	1,376,036	252,174
社債の償還による支出	48,000	60,000
配当金の支払額	60,400	140,024
その他	9,869	47,503
財務活動によるキャッシュ・フロー	165,425	289,701
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	102,933	103,156
現金及び現金同等物の期首残高	2,872,777	3,524,507
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,769,844	3,421,350

## 【注記事項】

## (追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

## (四半期連結貸借対照表関係)

## 手形割引高

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年2月28日)
受取手形割引高	47,158千円	16,558千円

## (四半期連結損益計算書関係)

## 販売費及び一般管理費の主なもの

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年9月1日 至 2018年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)
広告宣伝費	288,795千円	272,428千円
給料手当	568,748千円	567,483千円
賞与引当金繰入額	58,171千円	56,849千円
退職給付費用	10,383千円	14,706千円
役員退職慰労引当金繰入額	6,430千円	6,625千円
貸倒引当金繰入額	4,154千円	-千円
のれん償却額	510千円	510千円

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年9月1日 至 2018年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)
現金及び預金勘定	3,306,844千円	3,994,350千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金等	537,000千円	573,000千円
現金及び現金同等物	2,769,844千円	3,421,350千円

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2017年9月1日 至 2018年2月28日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年11月28日 定時株主総会	普通株式	60,543	5	2017年8月31日	2017年11月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年4月6日 取締役会	普通株式	121,087	10	2018年2月28日	2018年5月25日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年11月27日 定時株主総会	普通株式	140,637	10	2018年8月31日	2018年11月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年4月9日 取締役会	普通株式	140,637	10	2019年2月28日	2019年5月30日	利益剰余金



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2017年9月1日 至 2018年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	7,135,622	588,197	7,723,819
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	7,135,622	588,197	7,723,819
セグメント利益又は損失( )	823,326	32,996	790,330

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	790,330
全社費用(注)	273,743
四半期連結損益計算書の営業利益	516,586

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	7,690,762	647,402	8,338,164
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	7,690,762	647,402	8,338,164
セグメント利益又は損失( )	825,674	26,248	799,425

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	799,425
全社費用(注)	200,930
四半期連結損益計算書の営業利益	598,495

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年9月1日 至 2018年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)
1株当たり四半期純利益金額	27円99銭	35円72銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	338,961	502,363
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	338,961	502,363
普通株式の期中平均株式数(株)	12,108,751	14,063,751

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【その他】

第39期(2018年9月1日から2019年8月31日まで)中間配当については、2019年4月9日開催の取締役会において、2019年2月28日の株主名簿に登録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額	140,637千円
1株当たりの中間配当金額	10円00銭
支払請求の効力発生日及び支払開始日	2019年5月30日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年4月11日

株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 水野雅史
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 嶋田聖

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社AFC-HDアムスライフサイエンスの2018年9月1日から2019年8月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2018年12月1日から2019年2月28日まで）及び第2四半期連結累計期間（2018年9月1日から2019年2月28日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス及び連結子会社の2019年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。